

町産木材を学校教育で活用する 白鷹中学校の授業で町産木材を活用

白鷹中学校で、1学年の技術の授業に町産木材を活用した木工工作が行われました。

この取り組みは、山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業交付金を活用して行われており、町産木材を使って、生徒たちは本棚や小物入れ、マガジンラックなどを工夫をこらして作成していました。

町産木材に触れた生徒たちに感想を聞いてみると、「木の香りがとても良い」「色を染めると、すぐになじんでくれたのでとても使いやすかった」などと話し、非常に好感を抱いている様子でした。本町では、主伐期を迎えた木が多く存在し、今後も町産木材を活用した様々な取り組みを行っていきます。



色染めに夢中になるあまり、手が真っ黒に…!

今年一年も頑張っていきます！ しらたかFACTORYで「子」の工作

しらたかFACTORYでは、今年もみんなで力を合わせて頑張っていこうと、今年の干支であるねずみを題材とした工作が行われました。

10人の手により約2週間という製作期間を経て完成させたパネルと折り紙で作った立体ねずみ。一人ひとりが「良い一年になるように」「しらたかFACTORYが町内のみなさんに知ってもらえるように」と思いを込めて作りました。折り紙で作った立体ねずみの作品は、受け取ってくださる方の幸せを願い、ひとつひとつに「福」などと手書きで記し、鷹山地区で開催された新春懇談会の参加者にプレゼントしました。



◀心を込めて作った立体ねずみ

今年もしらたかFACTORYをよろしくお願いします！

白鷹の冬ならではの必勝祈願！ 受験生が「勝どき鮎」をいただく

1月24日、白鷹中学校の3年生たちはあゆ茶屋より提供いただいた「勝どき鮎」を食し、志望校合格に向けて必勝を祈願しました。

白鷹町では、毎年この時期になると高校受験を控えた中学校3年生に鮎が振舞われており、合格を祈願するために「勝どき鮎」と称して、長年親しまれている恒例行事です。鮎をいただいた生徒たちは「ふっくらしておいしかった」「鮎とつくってくださった方に感謝して、受験勉強を頑張っていきたい」と話しました。

まだまだインフルエンザなどが流行する時期です。体調管理に気を付けて、受験頑張ってください！



勝どき鮎をいただいて、合格を勝ち取ろう！

次世代へと受け継がれる伝統 東根小5年生が畔藤田植え踊りを披露

1月は各地区で新春懇談会が開催され、東根地区ではその席上で、東根小学校5年生の児童たちが畔藤田植え踊りを披露し会場を盛り上げました。

今年度、東根地区では地域づくり推進交付金を活用し田植え踊りで使用する児童用の衣装を作成。畔藤田植え踊り保存会の方から熱い指導を受けながら、児童たちは日々練習に励んできました。新春懇談会では、大勢の方が注目しているなかで緊張した面持ちだったものの、息の合った素晴らしい踊りを披露しました。「大人になっても踊り続けたい」と話す児童もおり、地域の想いが脈々と次世代に繋がっていました。



躍動感あふれる素敵な踊りを披露しました

地域でお年寄りの方を守っていこう 認知症サポーター養成講座を開催

1月20日、白鷹中学校の2年生を対象に、認知症サポーター養成講座が開催されました。

講座では、生活支援体制整備協議体委員会委員の照井クニさん、平吹隆さんによる紙芝居で、認知症に気付くまでの家族の関わりや認知症の方が暮らしやすい環境づくりのポイントなどを学びました。その後、町の保健師より、認知症の正しい理解や認知症の方との関わり方などを説明していただき、受講した生徒は「おじいちゃんやおばあちゃんに優しく接してあげてことを心がけたい」「これからはサポーターとしてできることをやっていきます」と話し、認知症に対する理解を深めました。最後に受講した生徒たちにはサポーターの証であるオレンジリングが渡されました。



自分たちができることを真剣に学びました

鯉から力と良い縁をいただく 白鷹中学校で「登り鯉の会」を開催

1月20日、白鷹中学校の2年生を対象に、登り鯉の会が開催され、長井市の高橋鯉店より提供いただいた鯉の甘露煮を給食で味わいました。

給食の前には、高橋鯉店の方より置賜地域における鯉の食文化の歴史や、鯉が出世の象徴といった縁起物とされていることなどをお話いただきました。講話後の生徒のあいさつでは、「来年度はいよいよ最高学年。鯉から力と良い縁をいただいて、頑張っていきたいです」と来年度に向けての決意が述べられました。

鯉を初めて食べるという生徒も多く、「とても甘く、濃厚でおいしい」と笑顔で頬張りました。



鯉をいただき、来年度に向けて力を蓄えました